

[第10回]

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

糖尿病随伴認知機能障害の 発症機序の解明

統合加齢神経科学研究部 生理学研究室

徳永 暁憲 室長

2016年6月14日(火) 16時00分
第1研究棟2階大会議室

高齢化社会の進展に伴う認知症患者数の増加は大きな社会問題となっている。しかし未だ根本的治療法は確立されておらず、また認知症は進行と共に病態改善が困難となることから、認知症対策として早期段階での診断および予防措置を図ることが重要と考えられている。

近年、代謝疾患と認知症の発症には強い相関があることが報告され、特に糖尿病が末梢組織の機能障害や血管性認知症を惹起するだけでなく、アルツハイマー型認知症の発症にも深く関わることで疫学研究、基礎研究の結果から明らかとなってきた。

統合加齢神経科学研究部では、糖代謝調節経路であるインスリン様シグナルの末梢組織および脳内での動向に着目し、糖尿病に附随する認知機能障害の発症機序の解明を目指した研究を進めている。本報告会では、現在解析を進めている複数の認知機能障害モデルマウスより得られた知見を報告すると共に、今後の展望について紹介したい。

座長：矢澤 生